

三浦市議会議員

いしざき 遊太 ゆうた



編集・発行 石崎 遊太 / 令和5年7月発行 / 三浦市南下浦町上宮田1422-4 / 080-4733-4115

初めての定例会を終えて

4月に行われた選挙では1960票もの得票を賜り、議員として三浦市議会に送り出していただきました。6月の定例会は、そんな私にとっての初舞台。準備不足な部分や議場での立ち振る舞いなど、反省点を挙げればきりがありませんが、議会運営の流れはだいぶ把握できたと自負しています。裏面で一般質問における私の意図や思いなどを簡潔にまとめています。

質問を行うにあたっては、下記の2点を強く意識してみました。

- ①単なる事実の確認で終わらず、要望や提案を明確に伝えること
 - ②手元に資料がない状態で傍聴しても、話の流れがつかみやすいこと
- ご感想やご指摘など、頂戴できれば大変嬉しく思います。

一般質問とは？

用語自体はなんとなくお聞きしたことがある方も多いかもかもしれません。実はこの一般質問、地方自治法上には規定が一切ありません。各自治体の会議規則において、議長の許可のもと、議員が当該自治体の一般事務について質問できる機会。これがいわゆる一般質問と呼ばれます。三浦市議会会議規則にもこの部分についての規定があり、原則として定例会が開かれる3月、6月、9月、12月の年4回、議員には行政全般について首長の考えや方策などを幅広く質問できる権利が与えられています。答弁内容は議事録として保存・公開され、三浦市議会ではYouTubeでのライブ配信およびアーカイブ配信（一定期間）が行われます。また、どなたでも議場において直接傍聴することができます。

こんな取り組みを継続しています

“シェアオフィスTIME”
を設けています！



三浦海岸のBAYSIDE SHAREにて、週2回ほどの頻度でいつでもお話できる時間を設けています。曜日や時間は毎週変動するため、日曜日にSNSにて告知しております。

選挙後も毎週、
駅立ちを行っています！



毎週水曜日、朝7時～8時半ごろまで三浦海岸駅の駐車場付近に立ってご挨拶させていただいています。お気軽にお声がけください。※雨天時や議会日程によっては中止or延期

活動の振り返りを行い、
ブログで公開しています！



毎週日曜日には1週間の活動の振り返りを行っています。また、ご挨拶した方や相談を受けた内容をコンタクトシートにまとめ、毎月はじめに件数などを公開しています。

議場外での普段の活動こそ、
議員としての真価が問われる部分だと考えています！

みうらみらいラボ 会員募集中



みうらみらいラボは、代表のいしざき遊太をとことん使い倒しながら、会員同士で「三浦の今と未来について考え合う」ための政治団体です。詳細および入会のお申し込みにつきましては、左のQRコードのページをご確認ください。

※ご連絡いただければ紙の申込書もお届け可能です。



PROFILE -プロフィール-

いしざき 遊太 ゆうた

HP、各種SNSなどは
こちらからどうぞ！！
お気軽にご連絡
いただくと嬉しいです。



1991年4月生まれの32歳。幼馴染の妻とともに、0歳の娘の子育てに奮闘中。
上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。
2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。
2023年4月の市議会議員選挙にて、1960票の得票を賜り当選。

質問の全体像

私が行った令和5年度第2回定例会における一般質問の項目は、下記のとおりです。

1 子育て支援政策について

- (1)妊婦さんへの支援
- (2)産後ケアと乳幼児への支援
- (3)SNS活用

2 児童の通学支援について

- (1)統廃合が確定した場合のバス通学支援
- (2)バス停および通学路の整備
- (3)集団登校に対する見解
- (4)スクールガードの体制

3 障がい福祉について

- (1)当事者(本人)目線の障がい福祉

質問や答弁の全文については、私が文字起こしたものをブログに掲載しております。もしよろしければ下記QRコードからご覧いただけます。

こちらの資料では実際の発言内容を掲載するのではなく、それぞれの項目について、私の質問の意図や要望の概要を文章で整理したいと思います。



こちらのQRコードより
発言全文をご覧いただけます



いしざき遊太 ブログ

子育て支援政策

本年の1月、我が家にも第一子となる娘がみうらっことして生まれてきてくれました。妻とともに子育てに奮闘する日々を送っています。子育て世代の当事者として、行政の子育て支援への本気度をあらためて確認したいという強い思いがありました。

具体的な改善要望についても述べましたが、育児用品支給事業やファミリーサポート事業など素晴らしい取り組みもあるため、その周知を意図してあえて質問したという側面もあります。

今後、現役世代の移住促進を行う上でも子育て支援の拡充は必須になります。市内に産科が無いという大きなビハインドはありますが、魅力的な子育て環境を構築するための資源は十分にあると思っています。三浦市に地縁も血縁もない移住者（または移住検討者）を明確なターゲットングとして意識した政策立案を求めています。

発言の中での主な要望

1. 現状施策（一例としてタクシー券の補助）の分析とブラッシュアップ
2. 市が主催するイベントにおける子育て世代の交流促進
3. 費用の補填ではなく絵本贈呈のようなポジティブな支援策の立案
4. SNS活用のさらなる促進
5. 子育て世代の移住者という明確なターゲットングの意識



育児用品支給事業で実際に市から支給してもらった商品。カタログから1万円分の商品が選べます。

児童の通学支援

本年の2月に統廃合検討対象校として三崎小学校（三小）、南下浦小学校（南小）、剣崎小学校（剣小）の3校が統廃合検討対象校として選ばれました。特に南小と剣小の2校は統合までの期間が短いこともあり、なるべく早いタイミングで新たな通学手段を整備していかなければなりません。統合によりバス通学の児童が増える中、児童の安全上の懸念や経済的な負担が増すことへの不安の声もたくさんいただきました。行政が厳しい財政状況の中で安全確保に努めている姿勢はよくわかりましたが、もう少し柔軟性のあるやり方が選択肢にあってもいいと思います、具体的な代替案も提示しました。

地域の重要な交通インフラである京浜急行バスと本市との協働意識は、こどもたちの通学のみならず、高齢者の生活を支える上でも非常に重要だと考えています。

もう一つの問題意識として、日々児童の安全を支えてくださっているスクールガードの組織整備の必要性についても言及しました。交通インフラなどのハード面、地域の見守り体制などのソフト面、両面からのアプローチで児童の通学をより安全なものにしていけたらと思います。

発言の中での主な要望

1. バス通学の負担率軽減（ICカード定期券にこだわらない小児定期の模索）
2. 通学ニーズに応じたバスの増便や運行ダイヤの改正
3. 通学の安全を確保するためのバス停と通学路の整備
4. スクールガードの組織強化と地域移行への旗振り



大乗（おおりの）のバス停。ここから南小まで約4km。大人でも歩けば50分はかかる道のりです。

障がい福祉

障がい福祉の充実度は、その地域の“やさしさ”と“多様性への寛容さ”を示すひとつの物差しになると考えています。障がい福祉のみならず、福祉全般を考える上で大切になるのが、『当事者(本人)目線』というキーワードです。

令和5年4月に施行された『神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例』は、まさにこの当事者目線に立ってこれまでの障がい福祉のあり方を見つめ直した、大変画期的な条例です。本条例に対する三浦市としての認識を確認した上で、市民への情報発信を行うことを要望しました。（実際に市のHPに本条例のリンクが掲載されるようになりました）

その流れで、地域での障害福祉関係者の連携と必要な支援事業の推進を図る三浦市障害者自立支援協議会においても、可能な限り多くの当事者の参画が実現できるよう求めました。

障がい福祉を考えることは、障がいの有無を問わず全ての人々のよりよい生き方を考えること。そんな意識を持ちながら、大切な政策領域としてこれからもしっかりと向き合っていきたいと思います。

発言の中での主な要望

1. 同条例に対する市としての周知施策の実施
2. 三浦市障害者自立支援協議会における当事者参画のさらなる推進

皆様のご意見ご感想
お待ちしております！
お電話、メール、SNS、
どんなツールでも
ご連絡ください！

